

第三国集団研修 事前調査団 報告書

— ブラジル・消化器病診断法 —

1998年9月

国際協力事業団
研修事業部

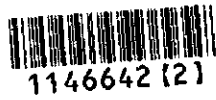


JICA LIBRARY



J 1146642 (2)

研 二
J R
98-19



1146642 (2)

序 文

第三国集団研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤を持つ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受け入れ、より現地事情に適した技術・知識の移転を図り、これにより開発途上国間協力の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入事業を実施できるよう協力することを目的としている。

本報告書は、1998年（平成10年度）にブラジル連邦共和国から要請のあった第三国集団研修「消化器病診断法」について、その実施可能性を総合的に調査するため、1998年5月27日から6月12日まで国際協力事業団がブラジル連邦共和国に派遣した事前調査団の調査結果を取りまとめたものである。

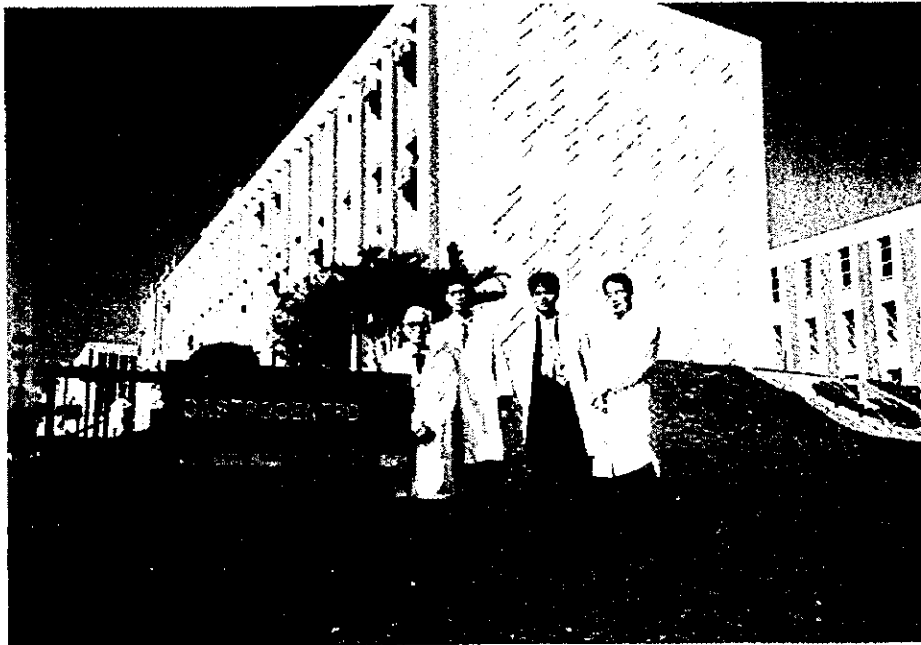
ブラジルは今後中南米・カリブ地域における南南協力の中核となっていく国であるため、本報告書を通じ、関係者が本件並びに第三国集団研修についての理解をより深め、今後の同国における第三国集団研修のよりよい展開に資することができれば幸いである。

本件の調査の実施に際し、ご協力いただいた外務省、富山医科薬科大学、在ブラジル日本国大使館、在サン・パウロ日本国総領事館及びブラジル側関係者に対し、深甚な謝意を表する次第である。

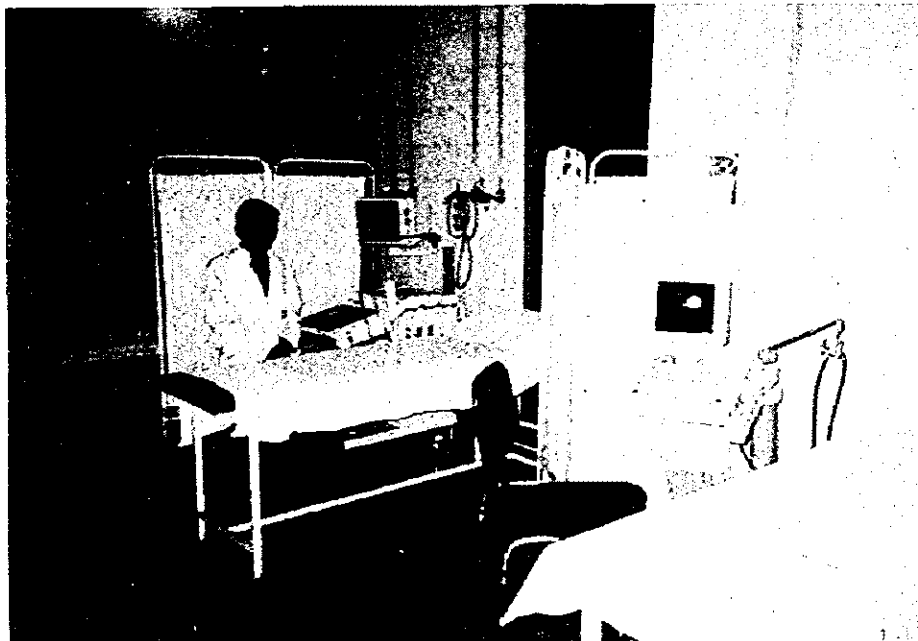
1998年9月

国際協力事業団
研修事業部長 森本 勝

1.実施機関（カンピーナス大学医学部消化器病センター）外観



2.実習機器（内視鏡）



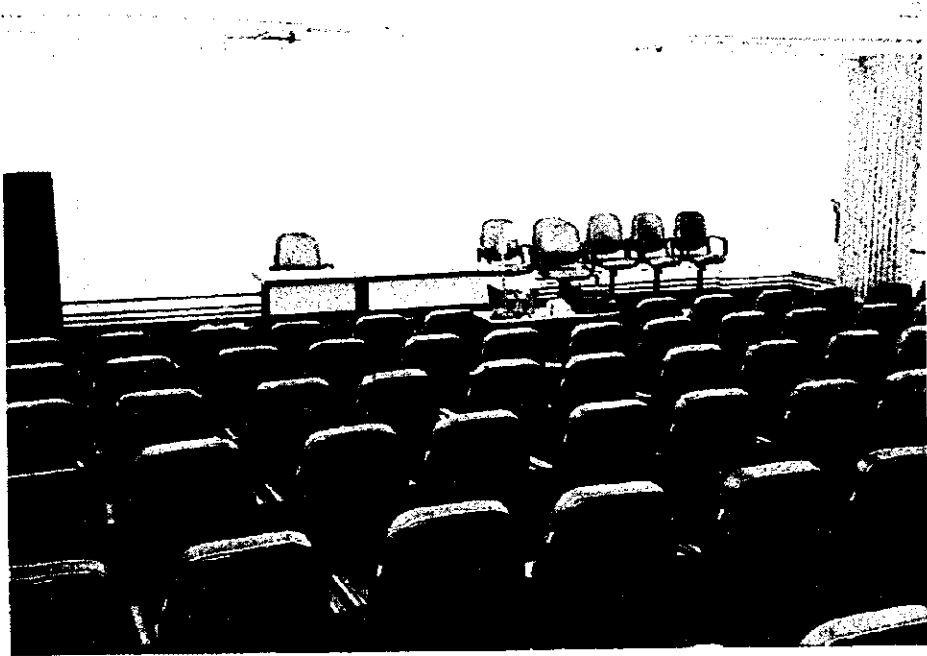
3. 実習機器 (内視鏡画像変換装置)



4. 内視鏡を用いた治療風景



5. 講義室



6. UNICAMP における協議風景



7. ミニッツ会場



8. ミニッツ署名



目 次

序 文
位置図
目 次

1. 事前調査団の派遣

- 1.1 調査団派遣の経緯と目的
- 1.2 調査団の構成
- 1.3 調査日程
- 1.4 主要面談者

2. 要請の背景と内容

- 2.1 ブラジルにおける当該分野の現状
- 2.2 中南米における当該分野の現状及び周辺国の研修ニーズ

3. 要請の内容及び協議結果 (第三国研修基本計画)

- 3.1 コース名
- 3.2 目的
- 3.3 到達目標
- 3.4 研修時期・期間
- 3.5 カリキュラム
- 3.6 割当国
- 3.7 定員
- 3.8 資格要件
- 3.9 研修経費
- 3.10 その他協議事項

4. 実施機関の研修実施内容 (UNICAMP)

- 4.1 組織及び事業概要
- 4.2 研修運営管理能力
- 4.3 研修指導能力
- 4.4 施設、機材等
- 4.5 日本の他の技術協力との関係
- 4.6 経費負担

5. 関連機関組織とその支援体制 (ABC)

5.1 組織及び事業概要

5.2 支援体制

5.3 経費負担

6. 日本側の協力の範囲

6.1 実行予算と日本側の経費負担

6.2 日本人専門家派遣

6.3 カウンターパート (C/P) の受入

6.4 集団コースとの違いについて

7. 団長所感

附属資料：

別添 1. 協議結果一覧表

別添 2. PDM

別添 3. Minutes of Meeting

1. 事前調査団の派遣

1.1 派遣の経緯と目的

我が国は伯国政府の要請に基づき、同国で急増し問題となっていた食道静脈瘤疾患等の出血性消化器疾患の原因究明と診断・治療法の確立を目的とした「カンピーナス州立大学消化器病診断・研究センタープロジェクト」を90年7月から96年7月までの6年間、実施した（フォローアップ協力期間1年を含む）。

同プロジェクトにより消化器内科、消化器外科、肝臓疾患に対する診断技術の向上とX線・超音波・内視鏡診断術の向上が見られ、特に内視鏡を導入した検査、臨床（手術）、研究分野における技術移転で顕著な成果が得られた。また、現地C/Pの資質及び適正配置についても良好であったと終了時評価報告書の中で報告されている。

一方伯国周辺の中南米諸国では近年消化器病が増加傾向にあるにも拘わらず、診断法が旧態依然のままであることを踏まえ、伯国政府は同技術を周辺国へ移転することを目的として、中南米諸国等を対象とする第三国集団研修の実施を要請してきた。

本調査団においては、要請内容の確認、研修計画の詳細等につき協議を行い、98年度の研修実施に向けて、我が国の協力の可能性を検討した。

なお、医療技術を除く調査団員は調査後、パラグァイ第二国研修「不耕起栽培による環境保全型農業」が実施されているCETAPAR及び農牧省普及局、第三国研修実施の可能性のある電気通信訓練センターを、研修実施状況の視察と協議及び案件採択にかかる検討材料の収集のために訪問した。

1.2 調査団構成

担当	氏名	所属
団長	飯田 譲司	JICA 研修事業部 研修第二課長
医療技術	山本 恵一	富山医科薬科大学名誉教授
計画協力	井出 浩司	外務省経済協力局技術協力課 事務官
研修計画	関根 創太	JICA 研修事業部 研修第二課 職員

1.3 調査日程

日順	日付	調査行程
1	5/27 (水)	19:00 東京発(RG837)
2	28 (木)	05:50 サンパウロ着 JICA 事務所打ち合わせ、在サンパウロ日本国総領事館表敬
3	29 (金)	07:36 サンパウロ発(VP444) 09:06 ブラジリア着 午前 JICA 事務所打ち合わせ、在日本国大使館表敬 午後 ブラジル ABC 表敬、伯外務省研修課打ち合わせ
4	30 (土)	12:05 ブラジリア発(VP453) 13:36 サンパウロ着
5	31 (日)	資料整理、カンピーナスへ車で移動
6	6/1 (月)	カンピーナス州立大学表敬、消化器病診断・研究センターとの協議、 関連の調査実施、資料収集
7	2 (火)	同上
8	3 (水)	東山農場視察、MM 案作成、ミニッツに関する協議
9	4 (木)	MM 締結
10	5 (金)	サンパウロへ車で移動 JICA サンパウロ事務所報告、総領事館表敬 21:30 山本団員/サンパウロ発 (00:20)
11	6 (土)	資料整理
12	7 (日)	09:15 サンパウロ発 (PZ709) 09:55 エステ着→CETAPAR 夜 CETAPAR 職員との懇親
13	8 (月)	CETAPAR 見学→アスンシオン
14	9 (火)	午前 JICA 事務所打ち合わせ、大使館・企画庁表敬 午後 プロ技サイト (電気通信訓練センター) 見学
15	10 (水)	農牧省表敬 17:10 アスンシオン発(RG903) 20:00 サンパウロ着
16	11 (木)	00:10 サンパウロ発(RG836)
17	12 (金)	13:10 東京着

1.4 主要面談者

(1) Brazilian Cooperation Agency (ABC) (ブラジル協力事業団)

Mr. Marcos Lins Faustino	二国間協力課
Mr. Roberto Fabini	二国間協力課
Mr. Manoel de Araújo Amorim	途上国協力課

(2) 伯外務省研修課

Mr. Paulo Roberto Simeao
Mr. Diogenes Coimbra
Mr. Pedro Henrique Eduards Magalhaes

(3) カンピーナス州立大学 (UNICAMP)

Prof. Dr. Hermano Tavares	学長
Prof. Dr. Mohamed Habib	国際部長
Prof. Dr. Jose Murilo R. Zeitune	ガストロセンター長
Prof. Ademar Yamanaka M. D. ph. D.	ガストロセンター教授
Marta Rodrigues	秘書

(4) 在ブラジル日本国大使館

塚田 千尋	大使
成瀬 英治	一等書記官

(5) 在サンパウロ日本国領事官

長谷川浩一	領事
渡辺 健治	領事

(6) JICA ブラジル事務所

蓮見 明	所長
吉田 憲	所員
中川美智子マリナ	所員

(7) JICA サンパウロ事務所

林 典伸	所長
池城 直	次長
野々口 クリステイナ	所員

(8) JICA 業務調整員 (カンピーナス大学臨床研究プロジェクト)

富永健一郎

2. 周辺国のニーズ

2.1 ブラジルにおける当該分野の現状

被調査国ブラジルの医療技術協力実施機関カンピーナス大学医学部消化器病センター（本研修の実施機関）において、94年から98年にわたり専門家業務に携わった経験のある山本団員の観察所見によれば、大サンパウロ圏（対象人口約1,500万人）を含め、日本の医療機関平均の80%程度の診察能力を有する施設は全体の15%以下であり、同地域内でもその過半は日本の医療機関の50%程度の能力を有することにとどまる。さらに同地域内医療機関の約30%は、日本医療機関の25%以下の能力であり、使用機器も旧式（1930年代に相当）である。

すなわち第三国研修実施予定機関カンピーナス大学医学部消化器病センターの診療能力は、被調査国内ではトップレベルに達しており、周辺国地域及びブラジル北部各州の一般的医療機関との格差は顕著であると認められることから、そこで実施される第三国研修は、次述の周辺諸国における医療水準と比較しても、十分にその成果を期待し得ると考えられる。

2.2 中南米における当該分野の現状及び周辺国の研修ニーズ

1) 周辺国の技術レベルについて

南米大陸における周辺國中アルゼンティン、チリ等の公共医療水準はブラジルと概ね同等であると認められるが、それ以外の南米各国、およびアフリカポルトガル語圏諸国は、ブラジルの北部、北東部等に近似した低水準の公共医療機関が大部分を占める現状であることが、諸資料及び入手可能な方法から窺知されている。従って第三国研修を実施予定機関からの医療技術普及策として実施することの意義は大きいと思われる。

2) 中南米及びポルトガル語圏アフリカ諸国における第三国集団研修のニーズについて

伯国周辺の中南米及びポルトガル語圏アフリカ諸国では近年消化器病が増加傾向にあるにも拘わらず、診断法が旧態依然のままである。一方、伯国政府は今なお総人口の過半数を占めると推定される低所得層に対する医療福祉政策上、研修実施予定施設であるカンピーナス大学消化器病診断・研究センターにおいて所轄医療圏（面積約500km²、対象人口約400万人）の低所得層に対する厚生省管掌医療援助による無償診療を行うこととしており、今回の研修生募集対象圏である中南米及びポルトガル語圏アフリカ諸国の大部分の国々の医療事情との相似性が高い。

本案件はこうした背景の中で、中南米諸国及びポルトガル語圏アフリカ諸国を対象として、90年度から96年度（フォローアップ協力期間1年を含む）までプロ技「カンピーナス大学消化器病診断・研究センター」により日本が移転した消化器病分野における医療技術を周辺国へ移転し、さらには周辺国における消化器病診断にかかる医師を育成することを目的として要請された。

3. 要請内容及び協議結果（第三国集団研修基本計画）

3.1 コース名

和文名称：消化器病診断法

英文名称：Strengthening on the Most Advanced Gastroenterological Diagnosis Training Course

3.2 コースの目的

中南米諸国では近年消化器病が増加傾向にあるが、その診断法は旧態依然としたものである。そこで研修員に消化器病に対する理論的及び実践的な知識を習得させることにより、同地域の消化器病患者の減少に資する。

3.3 到達目標

カリキュラムの内容・研修対象者のレベル等を考慮した結果、以下のとおりとすることで合意した。

- 1) 消化管内視鏡の理論および技術示説
 - a.上部（食道、胃、十二指腸）内視鏡
 - b.下部（大腸）内視鏡
- 2) 超音波内視鏡（ラジアル型）併用による胃病変並びに胆・膵管病変検査技術
- 3) 腹部超音波（体表走査型）検査法による肝・胆・膵管病変の診断ならびに CT, X線検査との比較検討
- 4) 消化器病疾患に対する臨床病理学的検査法
- 5) 消化器感染症（特にヘリコバクター・ピロリ感染と胃潰瘍診療及び HIV 感染者における真菌感染症、カポジ肉腫、リンパ肉腫合併）に対する診療技術

3.4 研修時期・期間

1) 時期：（初年度）1999年2月22日～3月20日

2) 期間：30日間

99年度以降は6月頃に実施したいとの UNICAMP からの意向あり

3.5 カリキュラム

- a) カントリーレポート発表及び意見交換
- b) 上部消化管内視鏡の最新理論及び技術の講義
- c) 上部消化管内視鏡応用技術の紹介
- d) 食道・胃内視鏡実技演習
- e) 上部消化管内視鏡による十二指腸胆道・膵管検査法
- f) 病理診断に必要な知見についての講義
- g) 下部大腸内視鏡検査法の理論と実技紹介
- h) 超音波検査法による肝、胆、膵疾患診断技術
- i) 胃感染症の検査法と胃潰瘍診断・治療技術及び HIV 感染者に多発する消化管真菌感染症の診断・治療技術
- j) カンピーナス AIDS センター見学及び実習

3.6 割当国

アルゼンチン、アンゴラ、ボリビア、カーボ・ヴェルデ、コロンビア、コスタリカ、エルサルバドル、ギニア・ビサウ、モザンビーク、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、サントメ・プリンシペ、ウルグアイ、ヴェネズエラ（計 17ヶ国）

※実施機関側から「キューバ」を割当国としたいとの要望があったが、第 1 回目の研修を終えた後やはり要望があればそのときに検討したいと相手側に伝えたところ、了承を得た。

3.7 定 員

15 名（周辺国 12 名、実施国 3 名）

3.8 資格要件

- a) 40 才以下のもの
- b) 大学医学部卒業者
- c) 消化器病診断分野の職歴が 3 年以上
- d) ポルトガル語またはスペイン語の読み書きに堪能なもの
- e) 心身共に健康なもの
- f) 参加国政府から推薦されたもの
- g) 軍籍にないもの

※実施機関側から資格要件について、研修員の上司である教授、院長等からの紹介状の提出を項目の一つとして R/D 案に加えたいとの要望があったが、応募者に配布されるものは G.I. であり、資格要件についての追加項目は G.I. に記載するのが適当である旨説明したところ了承を得た。

3.9 研修経費

総額	74,950 \$
日本側負担	52,050 \$ {69.45%}
ブラジル側負担	22,900 \$ {30.55%}

受入諸費については「空港送迎費」、研修諸費について「研修教材費」を除く全額をブラジル側 (UNICAMP) が負担する。なお、R/D 案の経費案の中でブラジル側の負担は UNICAMP によると明記せず、BRAZILIAN SIDE によるとし、将来連邦機関である ABC にも費用負担してもらう可能性を残す表現にした。また 20\$/日の日当は低すぎるとの指摘が事務所側からあり (要望調査票提出時より物価が高騰しているとのこと)、日当については今後修正せざるを得ないことも考えられる。

3.10 その他協議事項

研修コースの評価について、ロジカルフレームワークを説明。

(→今後、事務所で翻訳後、内容について実施機関と協議するよう依頼)

4. 第三国集団研修実施体制

4.1 組織及び事業概要

実施機関であるカンピーナス大学 (UNICAMP) は、同じく州立のサンパウロ大学 (USP)、カトリック大学と並んで、ブラジル三大優秀校とみなされており創設後 30 余年、日本の筑波大学に相当する最新設備を誇っている。その医学部教授陣は多くはサンパウロ大学より転属し、卒業生はブラジル医界の指導的役割を遂行しつつある。

従って、カンピーナス大学医学部消化器病センターを第三国研修の場とすることは、とりもなおさずブラジルの最高レベルの消化器診療技術（その中には日本の ODA の精粹技術も移転定着している）を第三国へ拡大移転する効果を期待できよう。

同センターの事業概要については以下の通り。

(a)食道、胃、十二指腸、小腸、大腸などの消化器疾患の内視鏡診断、及び治療技術。

(b)上記消化器内視鏡に付設された深部走査用超音波技術診断装置（我が国が世界の医界をリードしている）と、体表走査型超音波診断装置とを併用して、肝・胆・膵の病変診断をも実施できる技術を研修させる。

(c)消化器感染症の中でも、最近世界的に注目されているヘリクター・ピロリ感染症（胃・十二指腸潰瘍など）の診療技術、及び難治とされる HIV 消化管真菌感染症の診療技術についても、カンピーナス大学はブラジル国内外で指導的地位にあり、その技術を紹介し、研修させる。

以上を要するに、1996 年に終了したチリにおける消化器内視鏡診断にかかわる第三国研修をフォローして、さらにその発展的最近段階の研修内容をブラジル周辺国、及びアフリカポルトガル語圏諸国医師に研修せしめる新企画ということができる。

4.2 研修運営管理能力

カンピーナス大学には、医学部のみならず全学を統轄して世界各国との学術交流と研修（留学など）派遣・受け入れなどを行う‘国際部’があり、その管理能力は抜群である。とくに 1998 年 4 月より交代主宰している部長モハメッド・ハビブ教授は積極性に富む優秀な人材であること、事前調査団は確認しているので、この面の不安は全くないといえよう。

また研修員の選考及び選考方法及び基準については、上に述べているとおりカンピーナス大学の‘国際部’が既にその活動を通じて示している国際交流活動上の能力は極めて高いことを確認している。

従って同大学の‘国際部’が中心となって対象国への通知と応募者の選考を行い日本側がそれに対して助言、協力するという大筋が決定された。

それについて国際部及びブラジル側講師予定者の提案として、次のことが議せられた。

(a)開発途上国では往々にして政権担当グループからの縁故推薦が行われることがある。それに対する是正手段として対象国の中にあっても客観性の高い評価を受けている施設（大学、公的病院など）からの推薦を求める。

(b)単に政府間での通知を待つのみでなく、実施機関と従来から交流のあった対象国の優秀施設を標的として、研修医をリクルートする。

4.3 研修指導能力

1)項でも述べたごとくに、1990年より6年間実施したフェーズⅠ、さらに1997年より開始されているフェーズⅡを通して、実施機関のブラジル人医師の医療技術、及び研究能力は、日本の国立医校の80%を超える総合力を持っている。一部には日本の一般的消化器専門医の能力を超える優秀な医師も少数含まれる。

従って、ブラジル、アルゼンティン、チリを除いて今なお一般水準の低い中南米各国、及びアフリカ西海岸ポルトガル語圏医師への技術指導は十二分に可能であると認められる。日本から派遣する短期専門家については本計画起案にあたり、既に入選・リクルートを開始しているが、研修科目の第一にはまず超音波内視鏡検査講師等を中心に推進中である。事務手続についてはカンピーナス大学の‘国際部’を中心に行い、日本側コースリーダーが支援する。

4.4 施設、機材等

施設は現用の消化器病センター第1棟及び第2棟の使用で十分と考えられる。

機材はその一部、とくに内視鏡については現行の診療用で手一杯であるため、研修の効果を高めるためには、追加供給（初心者向きの中級機種）が必要である。

研修に使用する機材の確認については現地におけるC/P（講師予定者）とも事前調査に着手しており、日本より派遣講師との協議をも加えつつ、おおよその用途を立て終わっている。

4.5 日本の他の技術協力との関係

ブラジルにおいては全土にわたって十数件のプロ技が実施されている。しかし医療技術協力をテーマとするプロジェクトは現在3件にとどまり、北部における2件は家族計画、公衆衛生などインフラ整備を指向するものばかりであるのが現状である。

ブラジル国民保険福祉向上を目指すそれらの両件プロジェクトは、民度の低い北部、北東部においてはそれなりの意義を持つと考えられるが、その保健、公衆衛生面の向上と呼応して、疾病治療手段をも同時に提供できる診療技術担当者（医師、看護婦、パラメディカル）を育成するための研修計画を整備することもまた重要である。すなわち、公衆衛生の普及と、抽出された羅患者の治療技術の向上とは車の車輪の関係にあり、いずれの一方に過偏してもその効果を十分に発揮し得ない。従って本研修計画はブラジルにおける、また周辺国における国民福祉の向上に対して極めて有効な対策といえよう。

プロ技の技術移転の現状についてであるが、現在当該センターにはプロ技・フェーズⅠで技術を移転され、熟練したブラジル医師が多数おり、研修実施に十分堪えると考えている。

フェーズⅡにおいて技術移転実施中のHIV合併消化器感染症（真菌感染）については

目下技術移転進行中であるが、日本からの長期派遣専門家2名を含めて、講師陣に関する不安は全くないといえる。

4.6 経費負担

98年度から、新規に採択する第三国集団研修については、費用の30%程度（無償非対象国の場合）を相手国側に負担してもらうという日本側の方針に鑑み、下記の通りブラジル側負担費目及び金額を取り決めた（日本側負担については6.4項参照）。なお、日当については3.9項でも述べているとおり、20ドル/日は低すぎるとの意見が事務所側からあり、将来引き上げるを得ないこともあり得る。

また、3.9項及び5.3項でも述べているがブラジル側の費用は将来的には実施機関ではなく、ブラジル政府が負担するのが望ましい。

(1) 受入諸費

日当	20×12人×30日	7,200
小計		7,200

(2) 研修諸費

現地交通費	166×12人	2,000
消耗品費		2,000
研修教材費	30×100部	3,000
会議費	20×70人×2回	2,800
G.I.印刷費	5×400部	2,000
通訳備上費	14000×1人/1ヶ月	1,400
小計		13,200
総額		20,400

5. 関連機関の組織及び支援体制 (ABC)

5.1 組織及び事業概要

(1)名称：ブラジル協力事業団 (ABC)

(英：BRAZILIAN COOPERATION AGENCY)

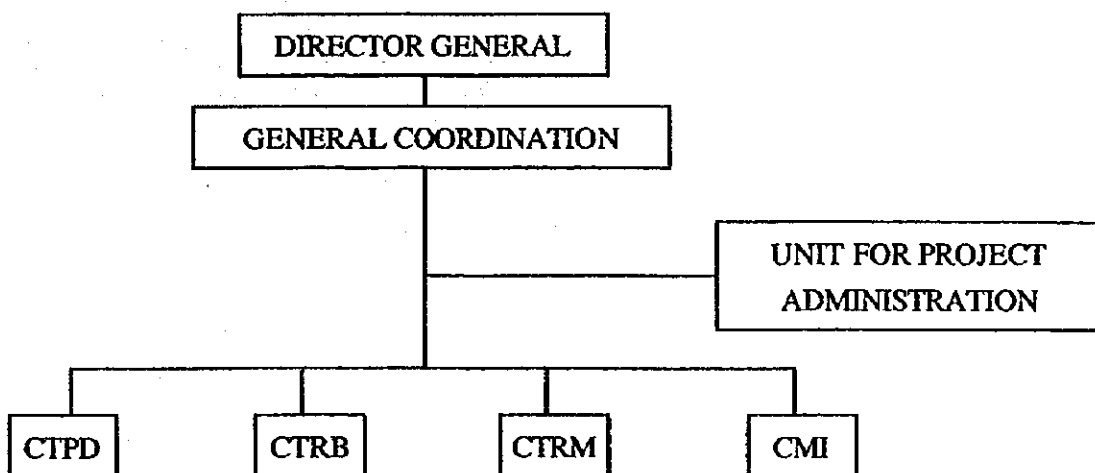
(ポ：AGÊNCIA BRASILEIRA DE COOPERAÇÃO)

(2)概要

伯政府と他国または国際機関との間で行われる、技術協力の調整を担当する機関として、1987年9月、伯外務省内に創設。主要業務は大きく分けて次の6つ。

- ・他国または国際機関からの援助の受け入れ、及び伯が他の途上国に対して行う技術協力の形成、監視、評価。
- ・国内及び国際の公的、私的関連機関との技術協力実施のための協力の締結。
- ・関係機関への技術協力に関する情報提供。
- ・案件の認可や、外国との交渉のための国際技術協力案件の分析。
- ・国際技術協力案件に参画する機関や、専門家の選定。
- ・技術協力関係予算の管理。

(3)組織 (職員数：約 60 名)



① CTPD (途上国間技術協力課)

- ・途上国間技術協力予算：約 300 万ドル

② CTRB (二国間技術協力受入課)

- ・主要援助国
日本 (53%) 独 (21%) 英 (7%) 仏 (9%) 加 (5%) 伊 (5%) 西 (?%)
- ・年間援助総額：8,650 万ドル

③ CTRM (多国間技術協力受入課)

・関係国際機関

UNDP、IDB、FAO、UNFPA、HCA、OAS、ITTO、ILO、WMO、PAHO、UNDCP、UNESCO、UNIDO、UNIFEM、他

・援助総額 (コスト・シェアリングベース) : 280 万ドル

④ CMI (近代化・情報化担当課)

データ修正やプロジェクト管理のための、コンピュータシステムの開発に関するサービス等を担当。

5.2 支援体制

CTRB (二国間技術協力受入課) が援助受入窓口課。

第三国研修についても CTRB が窓口。

第三国研修実施に際しては、割当国への G.I.配布、応募勧奨、受入可否通報等の手続面で、ABC の支援が必要となる。

5.3 経費負担

(1)一般論として、伯政府 (ABC) が水平協力 (南南協力) を推進していく姿勢を示していることから、日本との第三国研修 (新規 C/S 案件) において、伯側分担経費の全てを実施機関に任せるだけでなく、チリ等のように政府 (ABC) が部分的にも負担することが望ましい。

(2)今回調査団が ABC を訪問したところ、本件第三国研修消化器病診断法が、伯側 3 割負担として実施する初めての案件であり、本件から早速 ABC の経費分担を引き出すのは困難との印象であった。

(3)しかしながら、近い将来を目標に、引き続き現地 JICA 事務所 (及び大使館) と ABC の間で、ねばり強く話をしていくことが必要と思われる。

6. 日本側の協力の範囲

6.1 実行予算と日本側の経費負担

日本側が負担する経費については以下のとおり。なお、ブラジル側の経費負担については4.6項参照。

(1) 受入諸費		
航空賃	1,500×12人	18,000
空港送迎費	150×2回×12人	18,000
宿泊費	70×12人×30日	22,680
保険料	200×12人	2,400
小計		45,600
(2) 研修諸費		
外部講師	500×1人×1回	500
小計		500
総額		46,100

(実施経費分担)

(US\$)

【日本側】	【ブラジル側】	【総額】
46,100	+20,400	=66,500
(69.32%)	(30.68%)	(100%)

6.2 日本人専門家派遣

「超音波内視鏡」「肝臓造影」「肝臓動脈造影」分野で1名(2週間)の要請があったことを受けて、第1回目に超音波内視鏡(ラジアル型)の専門家を派遣するべく既に人選を開始している。具体的な時期は研修期間の第3週～第4週(1999年3月6日～21日)になると思われる。

6.3 カウンターパート研修について

第三国研修C/Pは枠は限られていること及び通常、5年間の協力期間中に1名程度受け入れであることを説明し、了承を得た。

研修分野についての具体的な要望は特になかった。

7. 団長所感

1. 本件第三国研修は、これまでブラジル国サンパウロ州立カンピーナス大学で、90年から96年まで展開された、プロジェクト方式技術協力の成果を踏まえ、同大学消化器病診断研究センターで、近年消化器病が増加傾向にある中南米及びポルトガル語圏アフリカ諸国を対象に実施しようとするものである。

2. 今回の現地調査にあたって、事前に情報収集及び調整に努めたが、次の諸点につき、出発までに内容を十分把握することができず、現地の調査及び交渉に委ねられた。

(a)実施手続き実施体制

カンピーナス大学は、これまで本件のような国際研修コースを実施したこともなく、またそれ故実務実施体制が十分備わっていないことも考えられた。

しかし、先般就任した新大学長の下、大学の国際協力を推進する国際部が拡充・強化され、人的・組織的には問題がないように思われた。

また、実際の手続きには、サンパウロ事務所の担当者ともども、詳細な内容の説明を行ったので、理解を得られたことと思う。

(b)カリキュラム

事前に実施機関側からは、コースの概略のみ提示があった。現地での調査中にセンター長自身がイニシアティブをとり、センターの日系医師(A.YAMANAKA)とも相談し、一つの詳細な案が提示された。

本調査団に参団していただいた、山本富山医科薬科大学名誉教授にも細目にわたり検討していただき、成案を見た。

(c)経費分担

実施機関側の分担意思及び分担能力について、事前には不明な点が多かった。

現地に入って調査をしていくうちに、相手側の本案件実施の意思が強く、また経費のある程度の負担が可能なことが判明した。そこで、まず可能な範囲で実施機関の負担を求め、日本側としては足らざる部分を補填することで話を進め、決着した。

基本的に、第三国研修はJICA等においてお願いされて実施するものでなく、実施機関(主として日本による技術移転がなされた機関)がその発意によって行うものであり、本案件は大学側がそれを十分認識した結果、すんなり経費分担の話がついたと思われる。JICA側の7割の負担で感謝されることしきりであった。

3. 本調査団はブラジル協力事業団(ABC)を往訪し、先方政府側の本件実施の意思の確認及び、ブラジル国内第三国研修一般につき、ブラジル側の経費負担のあり方について議論を行った。ABCとしては本件実施については、本調査団と大学側との合意を尊重することとした。ブラジル側の経費負担のあり方については、ABCが負担する可能性も含め、引き続き現地JICA事務所及び大使館とABCとの間で話をさせていただくことで合意した。

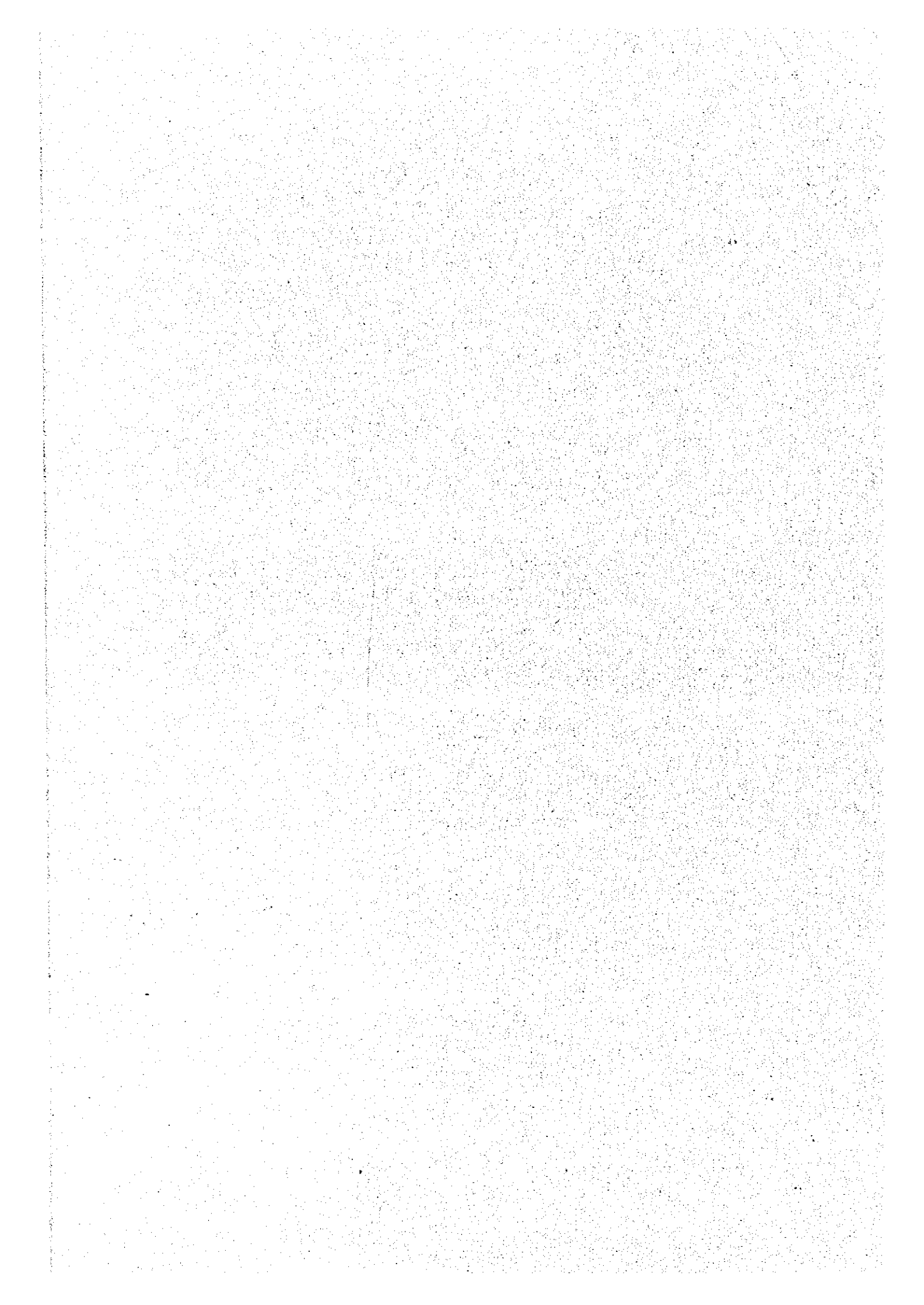
4. ブラジルでの調査にあたり、お忙しい中表敬を受けて下さり、いろいろアドバイスをいただいた、塚田在ブラジル日本国大使館特命全権大使及び同大使館員の方々、在サンパウロ総領事館牧首席領事及び同領事館の方々、蓮見 JICA ブラジル事務所長及び吉田副参事、林 JICA サンパウロ事務所長、池城次長、野々口職員、さらには一時帰国の予定を返上し、プロジェクトのみならず本調査団のために最善を尽くしてもらった富永調整員の諸氏に心より感謝したい。

5. ブラジルでの調査の後、パラグアイでの今後の研修実施の検討材料の収集を目的として訪問した。大使館（林書記官）及び JICA 事務所（榎下所長）訪問後、往訪したパラグアイ国企画庁側が、99 年度無償卒業を踏まえ、日本から移転された技術を周辺国に積極的に移転していきたいとしているのが、印象的であった。

また、CETAPAR（太田場長）における第二国研修も様々な新規の試みも行われているのを見て、96 年度の初回の研修実施立ち上げに本部側で携わった者として、嬉しく思った。

(附 属 资 料)

- 1.協議結果一覽表
- 2.P DM
- 3.Minutes of Meeting



ブラジル第三国集團研修「消化器病診断法」協議結果

ブラジル側実施案		日本側対応方針	
項目	消化器病診断法 Gastroenterological Diagnosis Training Course	消化器病診断法 Strengthening on the Most Advanced Gastroenterological Diagnosis Training Course	協議結果
1. コース名称			対応方針通り
2. 目的	中南米諸国及びポルトガル圏アフリカでは、近年消化器病が増加傾向にあるが、その診断法は旧態依然としたものである。そこで研修員に消化器病に対する理論的及び実践的な知識を習得させることにより、同地域の消化器病患者の減少に資する。	中南米及びポルトガル圏アフリカ地域における消化器病対策（診断、治療）の改善（基本的にブラジル側実施案と同様）	対応方針通り
3. 達成目標	この研修が終了した段階で、研修員に下記をはじめとする消化器学に対する理論的かつ実践的な知識が備わっていること。 ・内視鏡検査法、下部内視鏡、内視鏡経・肝臓検査、X線検査、CT、病理学	研修員が所属機関において、修得した消化器病診断法に対する理論的及び実践的な知識を（基本的にブラジル側実施案と同様）	達成目標の具体的な項目を以下の通りとした。 1. 消化管内視鏡の理論および技術示説 a. 上部（食道、胃、十二指腸）内視鏡 b. 下部（大腸）内視鏡 2. 超音波内視鏡（ラジアル型）併用による胃病変並びに胆・膵管病変検査技術 3. 腹部超音波（体表走査型）検査法による肝・胆・膵管病変の診断ならびにCT・X線検査との比較検討 4. 消化器病疾患に対する臨床病理学的検査法 5. 消化器感染症（特にヘリコバクター・ピロリ感染と胃潰瘍診断及びHIV感染者における真菌感染症、カポジ肉腫、リンパ肉腫合併）に対する診断技術
4. 具体的カリキュラム	(第一週) ・開講式、オリエンテーション (第二週) (第三週) (第四週) ・評価会、閉講式	1) 具体的カリキュラム案の提出を依頼するとともに、当該分野の各国の事情を知る目的でカントリレポートの事前作成、発表等の内容を組み入れることを調査団より提案。 2) 目的、達成目標、期間、資格要件、使用教材/教材との整合性を確認。 (第一週) ・開講式、オリエンテーション ・カントリレポート発表及び意見交換 ・上部消化管内視鏡の最新理論及び技術の講義 ・上部消化管内視鏡応用技術の紹介 ・食道・胃内視鏡実技演習 (第二週) ・上部消化管内視鏡による十二指腸胆道・膵管検査法 ・病理診断に必要な知見についての講義 ・第1回評価ミーティング (第三週) ・下部大腸内視鏡検査法の理論と実技紹介 ・超音波検査法による肝、胆、膵疾患診断技術 (第四週) ・胃感染症の検査法と胃潰瘍診断・治療技術及びHIV感染者に多発する消化器真菌感染症の診断・治療技術 ・カンピナーナスAIDSセンター見学及び実習	基本的に対応方針通り ・講義ごとの担当講師については講師の予定変更の可能性を勘案し、あらかじめ定めぬこととする ・おおまかな大項目をいくつかか定め、複数の講師を割り当てるとともに、総責任者を定めることとする

ブラジル第三国集団研修「消化器病診断法」協議結果

		<ul style="list-style-type: none"> 最新知見補修 講師・研修生懇談会 (第五週) 評価会及び修了式 	
5. 研修期間及び協力期間	約30日間 (1998年～2002年) (初回：99年2月22日～3月20日)	今後、必要な手続きに要する時間を確認し、決定。11年度は6月頃の実施となる見込み。	ブラジル側実施案通り。11年度は6～8月頃の実施となる見込み。
6. 制当国	アルゼンチン、アンゴラ、ポリビア、コロンビア、コスタリカ、エルサルバドル、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ヴェネズエラ	左に加えてアンゴラ以外のが語圏アフリカ地域のカーボ・ヴェルデ、モザンビーク、サントメ・プリンシペも制当国にしたいとの要望が実施機関から挙がっているが、これらの国に本研修が取り分野のニーズがあるか否かが確認要。もし上記3国を制当国とするならギニア・ビサウにも割り当てたほうがよい。	・対処方針通り ・ブラジル側がキューバに対していろいろと協力をやっていることとあり、キューバを制当国としたいとの要望が実施機関側からあったが、第1回目の終了後にもなおも要望があれば検討すると伝え、了承を得た。
7. 定員	周辺国12名+実施国3名=総計15名	研修内容・体制 (講師及び設備) を考慮して最適人数を確認する。	確認済み (ブラジル側実施案通り)
8. 資格要件	<ul style="list-style-type: none"> 年齢40歳以下 消化器病診断分野の職歴が3年以上 ポルトガル語またはスペイン語に堪能な者 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 年齢40歳以下の者 2. 大学医学部卒業者 3. 消化器病診断分野の職歴が3年以上 4. ポルトガル語またはスペイン語に堪能な者 5. 心身ともに健康である者 6. 軍籍にないもの 7. 参加国政府から推薦された者 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に対処方針通り 資格要件について、研修員の上司である教授、院長等からの紹介状の提出を項目の一つとしてRD案に加えたことと要望が実施機関側からあったが、応募者に配布されるものはG.I.であり、資格要件についての追加項目はG.I.に記載するのが適当である旨説明したところ了承を得た。
9. 研修機関	(和) キンビンナーナス州立大学消化器病診断・研究センター (英) Gastroenterological Diagnosis and Research Center - UNICAMP	実施体制について確認。 国内関係省庁との関係を確認し、先方のRD著名機関・著名者を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル側実施案通り ・実施体制については問題ない。実施機関の関係省庁は厚生省。RD著名機関・著名者はブラジル協力事業団(ABC)長官及びキンビンナーナス大学学長。
10. 募集選考方法	募集方法：ともに特に記載無し 選考方法：ともに特に記載無し	募集・選考方法について確認する。	募集・選考方法については全面的に実施機関側に任せるとする。
11. 業務分掌	記載無し	通常の第三国集団研修のスキームの例に従って実施する。業務スケジュールについて理解を深める。コースレポート等の記載項目はサンプルを手渡す。	対処方針通り実施
12. 日本人専門家派遣	1名 (1週間) 分野 1. 超音波内視鏡 2. 肝臓造影 3. 肝臓動脈造影	<ul style="list-style-type: none"> ・プロ技専門家 (長期・短期) との選考 ・派遣の必要性について確認 (指導内容、人数、期間等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・超音波内視鏡 (ラジアル型) 検査を指導できる講師について、既に入選・リクルートを開始している。 ・第1回目の研修に際しての具体的な派遣期間は研修の第3～4週 (99年3月6日～21日) を予定している。
13. CIP研修員受入	記載無し	<ul style="list-style-type: none"> ・第三国研修CIPは枠は限られていることを説明し、要望があれば聴取する。 ・通常、5年間の協力期間中に1名程度受け入れられることを説明する。 	対処方針通り実施

ブラジル第三国来団研修「消化器病診断法」協議結果

14.経費負担内訳	<p>(日本側負担)</p> <p>(1) 受入諸費 航空賃 1,500×12人 18,000 宿泊費 70×12人×27日 22,680 日当 20×12人×28日 6,720 保険料 200×12人 2,400 小計 49,800</p> <p>(2) 研修諸費 研修教材費 150×15人 2,250 小計 2,250</p> <p>総額 52,050</p>	<p>(日本側負担)</p> <p>(1) 受入諸費 航空賃 1,500×12人 18,000 空港送迎費 150×2回×12人 18,000 宿泊費 70×12人×30日 22,680 保険料 200×12人 2,400 小計 45,600</p> <p>(2) 研修諸費 外部講師 500×1人×1回 500 小計 500</p> <p>総額 46,100</p>	<p>・基本的に対処方針通り</p> <p>・R/D案の ANNEX III (経費案) の中でブラジル側の負担主体を UNICAMP と明記せず、BRAZILIAN SIDE と記し、将来連邦機関である ABC にも費用負担してもらおう可能性を残す表現にした。</p> <p>・20S/日の日当は低すぎるとの指摘が事務所側からあり (要望調査票提出時より物価が高騰しているとのこと)、日当については今後修正せざるを得ないことも考えられる。</p>
<p>(ブラジル側負担)</p> <p>(1) 受入諸費 日当 20×12人×30日 7,200 小計 7,200</p> <p>(2) 研修諸費 現地交通費 166×12人 2,000 消耗品費 2,000 研修教材費 30×100部 3,000 会議費 20×70人×2回 2,800 G.I.印刷費 5×400部 2,000 通訳係上費 14000×1人/1ヶ月 1,400 小計 13,200</p> <p>総額 20,400</p> <p>(実施経費分担) (US\$) [日本側] [ブラジル側] (総額) 46,100+20,400= 66,500 (69.32%) (30.68%) (100%)</p>	<p>(ブラジル側負担)</p> <p>(1) 受入諸費 空港送迎費 150×2回×12人 18,000 小計 18,000</p> <p>(2) 研修諸費 外部講師 500×2人×1回 1,000 現地交通費 5×15人×28日 2,100 消耗品費 5000/30日 5,000 会議費 30×60人×2回 3,600 G.I.印刷費 160×15人 2,400 通訳係上費 70×2人×30日 4,200 迎賓費 1000/30日 1,000 小計 19,300</p> <p>総額 22,900</p> <p>(実施経費分担) (US\$) [日本側] [ブラジル側] (総額) 52,050+22,900= 74,950 (69.45%) (30.55%) (100%)</p>	<p>・毎年度、参加者などのように評価する予定か、先方の考え方を聴取する。</p> <p>・参加者に配布するクエスチョナア、コースレポートの雛形を提示し、モニタリング・評価方法について説明するとともに、総合的な評価として、4年目に終了時評価を実施することを説明する。</p>	
15.研修評価方法	記載なし	対処方針通り実施	

ブラジル第三国集団研修「消化器病診断法」に係る

ロジカルフレームワーク

研修コースの概要 Narrative Summary	指標 Verifiable Indicators	指標データ入手手段 Means of Verifications	重要な外部条件 Important Assumptions
<p>1. 上位目標 Overall Goal</p> <p>中南米及びポ語圏アフリカ地域における消化器病対策（診断、治療）の改善</p>	<p>1) 消化器病による死亡率の低下</p> <p>2) (割当国各国の) 消化器病診断にかかる要員数</p>	<p>1) WHO 白書</p> <p>2) 各国政府白書</p> <p>3) 関連分野研修員のレポート</p>	<p>1) 中南米及びポ語圏アフリカ各国において「消化器病診断」の普及政策が継続される。</p> <p>2) 中南米各国の政策として関連法制度、財政が整備される。</p>
<p>2. 研修の到達目標 Project Purpose</p> <p>研修員が所属機関において、修得した消化器病診断法に対する理論的及び実践的な知識を実践に移し、普及させる。</p>	<p>1) 消化器疾患の早期発見件数</p> <p>2) 誤診件数</p> <p>3) 帰国研修員の就業状況とその効果</p>	<p>1) 短期専門家報告書</p> <p>2) 帰国研修員及び所属先に対する質問状の送付とその分析</p> <p>3) 関連分野研修員のレポート</p>	<p>1) 参加研修員が所属機関で勤務を続ける。</p> <p>2) 十分な資金の調達</p> <p>3) 消化器病の治療体制の充実</p>
<p>3. 研修の成果 Outputs</p> <p>この研修が終了した段階で、研修員に下記をはじめとする消化器学に対する理論的かつ実践的な知識が備わっていること。</p> <p>・内視鏡検査法、下部内視鏡、内視鏡腫瘍・肝臓検査、超音波検査（X線・CT）、病理学、ヘリコバクター、HIV 消化管感染症対策</p>	<p>1) 研修員による研修修了時評価</p> <p>2) 講師による評価</p> <p>3) 研修実施機関による評価</p> <p>4) コースの運営状況</p>	<p>1) 研修修了時評価会コメント・クエスチョネアの分析</p> <p>2) 研修修了時評価会コメント</p> <p>3) 定員充足率</p> <p>4) 講師、研修管理担当者のコメント等</p>	<p>1) 帰国研修員が研修成果をフィードバックできるポジションにいる。</p> <p>2) 帰国研修員の所属先に消化器病診断技術のための必要な設備・資材が整っている。</p>
<p>4. 活動 Activities</p> <p>1) コース名：「消化器病診断法」</p> <p>2) 研修期間：約30日間</p> <p>3) 研修機関：カンピーナス州立大学消化器病診断・研究センター（UNICAMP）</p> <p>4) 定員数：15名（周辺国12名、実施国3名）</p> <p>5) 割当国：中南米及びポルトガル語圏アフリカ地域16ヶ国</p> <p>6) 応募資格：</p> <p>6-1. 40才以下のもの</p> <p>6-2. 大学医学部卒業生</p> <p>6-3. 消化器病診断分野の職歴が3年以上</p> <p>6-4. ポルトガル語またはスペイン語に堪能な者</p> <p>6-5. 心身ともに健康である者</p> <p>6-6. 軍籍にないもの</p> <p>6-7. 参加国政府から推薦された者</p> <p>7) カリキュラム</p> <p>7-1. 内視鏡検査法（上部・下部内視鏡）</p> <p>7-2. 内視鏡腫瘍・肝臓検査</p> <p>7-3. 超音波検査（X線、CT）</p> <p>7-4. 病理学</p>	<p>投入 Inputs</p> <p><u>日本側</u></p> <p>1) 研修実施にかかる経費</p> <p>2) 短期専門家の派遣</p> <p>3) C/P 研修員の受け入れ</p> <p><u>ブラジル側</u></p> <p>1) 研修カリキュラムの作成</p> <p>2) GIの作成、送付</p> <p>3) 研修参加者の選考</p> <p>4) 講師、宿舍等の手配</p> <p>5) 研修施設の提供および機材、教材の調達、整備</p> <p>6) 研修実施にかかる経費</p> <p>7) 講義の実施</p> <p>8) その他必要な便宜供与</p>	<p>1) 当初計画（GI）に基づき研修が実施される。</p> <p>2) 研修員の技術レベルが一定である。</p> <p>前提条件 Pre-conditions</p> <p>1) コースニーズがある。</p> <p>2) 研修有資格者が地域内に存在する。</p> <p>3) 実施機関に研修を遂行出来る人材が十分いる。</p> <p>4) 研修に必要な施設、機材、教材等が整備されている。</p> <p>5) 関連予算が確保されている。</p>	

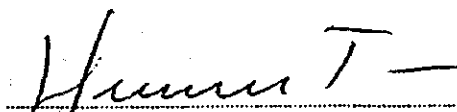
MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM
AND
GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER – UNICAMP
ON
THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

1. The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as "The Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Joji George Hanta, visited the Federative Republic of Brazil from May 28th, 1998 to June 7th, 1998, in order to discuss with the Authorities concerned of Gastroenterological Diagnosis and Research Center – UNICAMP (hereinafter referred to as "UNICAMP"), here represented by Dr. Hermano de Medeiros Ferreira Tavares, a training course for participants from Latin American and Portuguese speaking African countries in the field of gastroenterological diagnosis considered to be implemented in the Federative Republic of Brazil under JICA's Third Country Training Programme.
2. The Team conducted surveys, held a series of meetings and exchanged opinions with UNICAMP regarding the course.
3. Both sides came to share the view that the course will contribute to the development of gastroenterological diagnosis in Latin American and Portuguese speaking African countries.
4. Both sides drafted the Record of Discussions attached as APPENDIX I, and agreed to recommend to their respective Governments that further studies should be made for elaborating it in order to ensure the successful implementation of the course.
5. A list of attendants at the meetings is attached as APPENDIX II.

Campinas, June 4th, 1998.



Mr. Joji George Hanta
Head of the Japanese
Preliminary Survey Team
Japan International
Cooperation Agency (JICA)


Prof. Dr. Hermano de Medeiros
Ferreira Tavares
President
State University of Campinas
(UNICAMP)

The Federative Republic of Brazil

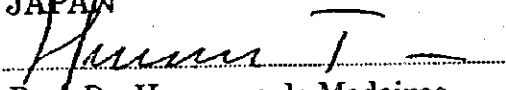
(DRAFT)
 THE RECORD OF DISCUSSIONS
 BETWEEN
 THE COORDINATOR IN BRAZIL FOR TECHNICAL COOPERATION OF JICA,
 THE BRAZILIAN COOPERATION AGENCY AND
 GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER – UNICAMP
 ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Japanese Preliminary Survey Team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Joji George Hanta, visited the Federative Republic of Brazil from May 28th to June 5th, 1998 and had a series of discussions with the Representative of the Brazilian Cooperation Agency (hereinafter referred to as "ABC"), as the legal intervenient agency on behalf of the Government of the Federative Republic of Brazil, headed by Emb. Elim Saturnino Ferreira Dutra and with the staff of Gastroenterological Diagnosis and Research Center - UNICAMP, here represented by Prof. Dr. Hermano de Medeiros Ferreira Tavares, with respect to the framework of a training course in the field of Gastroenterological Diagnosis under JICA's Third Country Training Programme, and to the desirable measures to be taken by the authorities concerned of the both Governments to ensure the successful implementation of the course. Based on the above discussions, the Coordinator in Brazil for Technical Cooperation of JICA, ABC and UNICAMP agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Brasilia, , 1998.

.....
 Mr. Akira Hasumi
 Coordinator in Brazil for
 Technical Cooperation of the Japan
 International Cooperation
 Agency (JICA)

JAPAN


 Prof. Dr. Hermano de Medeiros
 Ferreira Tavares
 President
 State University of Campinas
 (UNICAMP)

The Federative Republic of Brazil

.....
 Emb. Elim Saturnino Ferreira Dutra
 General Director
 Brazilian Cooperation Agency (ABC)
 The Federative Republic of Brazil

ATTACHED DOCUMENT

TO THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN
THE COORDINATOR IN BRAZIL FOR TECHNICAL COOPERATION OF JICA,
THE BRAZILIAN COOPERATION AGENCY AND
GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER – UNICAMP

The Government of Japan and the Government of the Federative Republic of Brazil will cooperate with each other in organizing a training course in the field of gastroenterological diagnosis (hereinafter referred to as "the Course") at the Gastroenterological Diagnosis and Research Center - UNICAMP under JICA's Third Country Training Programme.

UNICAMP will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from Japanese fiscal year (hereinafter referred to as "JFY") 1998 to JFY 2002, subject to annual consultations between both Governments.

The Course will be conducted in accordance with the followings :

1. TITLE

The Course will be entitled "Strengthening on the Most Advanced Gastroenterological Diagnosis Training Course".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to provide the participants from the Latin American and Portuguese speaking African countries with an opportunity to improve their knowledge and techniques in the field of gastroenterological diagnosis.

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected to have acquired the technique and knowledge of :

- 3.1 Principle and techniques of gastroenterological endoscopies
 - a. Upper esophago-, gastro-, and duodenoscopies
 - b. Lower colonoscopy,
- 3.2 Endoscopic examination methods and therapeutic techniques of choledocho pancreatic diseases cooperated with endoscopic ultrasonography,
- 3.3 Ultrasonographic examination technique associated with X-ray and CT observations,

- 3.4 Macro-, and micropathologies on gastroenterological diseases, and
- 3.5 Bacterio-, and mycologic aspects on gastroenterologic disorders, especially due to helicobacter pylori and HIV infections.

4. DURATION

The duration of the Course will be approximately four (4) weeks. The Course for JFY 1998 (hereinafter referred to as "the first Course") will be held from February 21 to March 22, 1999.

5. CURRICULUM

The tentative curriculum of the first Course is attached as ANNEX I.

6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following countries will be invited to apply for the Course by nominating applicant(s) :

Argentina, Angola, Bolivia, Cape Verde, Colombia, Costa Rica, Ecuador, El Salvador, Guinea-Bissau, Mozambique, Nicaragua, Panama, Paraguay, Peru, Sao Tome and Principe, Uruguay, Venezuela

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed twelve (12) and the number of participants from Brazil shall not exceed three (3), in total fifteen (15).

8. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are :

- 8.1 to be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure stipulated in 10-1 below,
- 8.2 to be university graduates specialized in clinical medicine or those who have fully equivalent technical knowledge and experiences in the field,
- 8.3 to be presently engaged in gastroenterological section of clinic,
- 8.4 to have more than three (3) years of practical experience,
- 8.5 to be under forty (40) years of age,
- 8.6 to have a sufficient command of spoken and written Portuguese or Spanish,
- 8.7 to be in good health, both physically and mentally, to complete the Course, and
- 8.8 not to be serving in the military.

Handwritten signature and initials:
@
H.T.

9. FACILITIES AND INSTITUTION

The Course will be given at Gastroenterological Diagnosis and Research Center - UNICAMP (hereinafter referred to as "UNICAMP"), in the Federative Republic of Brazil.

10. APPLICATION PROCEDURE

- 10.1 A Government applying for the Course on behalf of its nominee(s) shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of the Federative Republic of Brazil through Brazilian diplomatic channels not later than ninety (90) days before the commencement of the Course.
- 10.2 The Government of Federative Republic of Brazil will inform the applying Governments, through Brazilian diplomatic channels, whether or not the applicant(s) is/are accepted to the Course not later than forty (40) days before the commencement of the Course.

11. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE GOVERNMENT OF THE FEDERATIVE REPUBLIC OF BRAZIL

In organizing and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country. The schedule of the first Course implementation is attached as ANNEX II.

11-1 The Government of the Federative Republic of Brazil

11-1-1 through ABC

- (1) To forward General Information (G.I.) to the Governments of invited countries through Brazilian diplomatic channels
- (2) To receive application forms sent by the applying countries through Brazilian diplomatic channels and forward them to UNICAMP
- (3) To notify the Coordinator in Brazil for Technical Cooperation of JICA (hereinafter referred to as "the Coordinator") and invited Governments, through Brazilian diplomatic channels, the results of the selection of participants

11-1-2 through UNICAMP

- (1) To formulate the curriculum of the Course based on ANNEX I
- (2) To draft and print the G.I.
- (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors for the Course

- (4) To provide its training facilities and equipment for the Course
- (5) To select participants for the Course and notify the Coordinator and ABC of the results
- (6) To arrange accommodation for participants
- (7) To arrange international air tickets for the participants from invited countries and to meet and see them off at the airport
- (8) To arrange domestic study tour(s) as a part of the Course
- (9) To bear expenses in accordance with the attached draft budget for the first course as ANNEX III. Budget for the second and later courses will be determined through annual consultations between the two Governments
- (10) To issue certificates to the participants who have successfully completed the Course
- (11) To submit a course report to the Coordinator within thirty (30) days after the termination of the Course
- (12) To submit a statement of expenditure to the Coordinator within thirty (30) days after the termination of the Course
- (13) To coordinate any matter related to the Course

11-2 The Government of Japan :

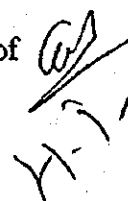
11-2-1 through JICA

- (1) To dispatch Japanese short-term expert(s), in accordance with the normal procedures of its technical cooperation scheme, who will give relevant advice to UNICAMP and deliver some of the lectures. This is, however, subject to the JICA budget available for this purpose and to the number of suitable expert(s) in Japan. UNICAMP, through ABC, is expected to pre-inform the Coordinator of the requests for JICA short-term expert(s) not later than the annual consultation;
- (2) To bear expenses in accordance with the attached draft budget for the first course as ANNEX III. Budget for the second and later courses will be determined through annual consultations between the two Governments.

12. PROCEDURE OF REMITTANCE AND EXPENDITURE

Remittance of funds for expenses to be borne by the Government of Japan and the expenditure thereof will be arranged in accordance with the following procedures :

- 12.1 UNICAMP will open a bank account in the Government of the Federative Republic of Brazil to receive the funds remitted by JICA, and inform the Coordinator of the name of the bank, the account code number and the name of the account holder,

Handwritten signature and initials:


- 12.2 UNICAMP will submit to the Coordinator a bill of estimate for the expenses to be borne by the Government of Japan not later than sixty (60) days before the commencement of the Course,
- 12.3 JICA will assess the bill of estimate and remit the assessed amount of expenses to the account mentioned in 12-1 above within thirty (30) days after the receipt of the bill of estimate,
- 12.4 UNICAMP will submit to the Coordinator a Statement of Expenditure remitted by JICA with the receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditure within thirty (30) days after the termination of the Course,
- 12.5 In case there is any unspent remainder of the amount remitted by JICA, UNICAMP will reimburse the unspent amount to JICA as soon as the Course terminates. The funds allocated for the flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purpose, and
- 12.6 When requested by JICA, UNICAMP will make for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditures stated in 12-4 above.

13. OTHERS

This attached document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be part of the Record of Discussions.

- ANNEX I: Tentative Curriculum of the Course (For JFY 1998)
ANNEX II: Schedule of the Course Implementation (For JFY 1998)
ANNEX III: Tentative Estimate of Expenses to be borne by the Government of Japan and the Government of the Federative Republic of Brazil (For JFY 1998)

TENTATIVE CURRICULUM FOR THE FIRST COURSE

February 21-March 22, 1999

Week	Day	Curriculum activities	Instructor/Responsible
1	Sun	Arrival in Campinas	Dr. Brandalise Dr. Ciro
	Mon	Registration. Orientation. Opening ceremony and welcome party. Discussion and country report presentation	
	Tue	*Lecture and demonstration of technique for upper gastroenterologic endoscopies by lecturers	
	Wed	*Some applied techniques for esophago-, gastric endoscope.	
	Thu	*Video-endoscopy techniques and diagnostic techniques of esophageal, gastric diseases	
	Fri	(Practice)	
	Sat	Social activity	
2	Sun		Dr. Callejas Japanese experts Dra. Miriam Dra. Rosangela
	Mon	*Principle and demonstrable techniques for biliary and pancreatic ducts using upper endoscope	
	Tue	*Demonstration of ultrasonic endoscopy techniques for gastric tumorous lesions and hepato-pancreatic diseases	
	Wed	*Clinico-pathological features of gastric tumors including so called early carcinomas on digestive tract	
	Thu	(Lectures with slide demonstration)	
	Fri	Evaluation meeting 1	
3	Sun		Dr. Ricardo Dr. Ademar Dr. Jazon Dra. Elza
	Mon	*Lecture and demonstration of technique for lower colonoscopy	
	Tue	(Lecture, video-demonstration, and practice). Desires only	
	Wed	*Second practice for desires who learn upper endoscope technique	
	Thu	*Principle and demonstration of ultrasonographic technique for liver and gastroenterological diseases	
	Fri	*Practice of abdominal ultrasonographic examinations	
4	Sun		Dr. Frederico Dr. Murilo Dra. Nancy Dra. Irene Barcelos
	Mon	*Techniques for survey and examination for gastric ulcer due to helicobacter pylori infection including bacteriologic technique	
	Tue	*Fungal infections and neoplastic lesions combined with HIV infected patients	
	Wed	(Lecture, video-demonstration or practice)	
	Thu	Supplementary lessons or extra lectures of latest techniques on endoscopic diagnosis	
	Fri	MRI, virtual endoscopy and digital angiography	
5	Sun		
	Mon	Evaluation. Closing ceremony.	

**SCHEDULE OF THE COURSE IMPLEMENTATION
(FROM JFY 1998 TO JFY 1999)**

MONTH	BRAZILIAN SIDE	JAPANESE SIDE
JULY, 1998	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Preparation of G.I. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions
AUGUST, 1998	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Form A-1 2. Distribution of G.I. and Application Form 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Recruitment of Experts
OCTOBER, 1998	<ol style="list-style-type: none"> 1. Receipt of Application Form 	
NOVEMBER, 1998	<ol style="list-style-type: none"> 1. Opening of Bank Account 2. Submission of Bills of Estimate 3. Selection of the Participants 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Form B-1
DECEMBER, 1998	<ol style="list-style-type: none"> 1. Notification of the Results of Selection 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Remittance of Expenses
FEBRUARY-MARCH, 1999	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of the Course 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Experts
APRIL, 1999	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submissions of Course Report 	

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSES TO BE BORNE
BY THE GOVERNMENT OF JAPAN AND
THE GOVERNMENT OF THE FEDERATIVE REPUBLIC OF BRAZIL
(FOR JFY 1998)

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	JICA (US\$)	BRAZILIAN SIDE (US\$)
I . Invitation Expenses			
1. Air fares (round trip)	1,500×12p	18,000	
2. Accomodations	70×12p×27days	22,680	
3. Per-diem	20×12p×28days	6,720	
4. Medical insurance	200×12p	2,400	
5. Transportation (airport-hotel)	150×21×12p		3,600
Sub Total	53,400	49,800	3,600
II . Training Expenses			
1. Honoraria for external lecturers	500×2p×1t		1,000
2. Transportation (daily)	5×15p×28days		2,100
3. Expendable supplies	5,000/30days		5,000
4. Meeting expenses	30×60p×2t		3,600
5. G.I. Printing/Certificates	160×15p		2,400
6. Local employment	70×2p×30days		4,200
7. Postage/Communication	1,000/30days		1,000
8. Teaching material	150×15p	2,250	
Sub Total	21,550	2,250	19,300
Grand Total (US\$)	74,950	52,050	22,900
Grand Total (%)	100.00%	69.45%	30.55%

LIST OF ATTENDANTE

JAPANESE SIDE	BRAZILIAN SIDE
<p><u>(The Japanese Preliminary Survey Team)</u></p> <p>1. Mr. Joji Hanta Director, Second Training Division, Training Affairs Department (JICA)</p> <p>2. Mr. Keiichi Yamamoto Honorary Prof., Toyama Medical and Pharmaceutical Univ.</p> <p>3. Mr. Koji Ide Staff, Ministry of Foreign Affairs</p> <p>4. Mr. Sota Sekine Staff, Second Training Division, Training Affairs Department (JICA)</p> <p><u>(JICA Brazil Office)</u></p> <p>1. Mr. Satoshi Yoshida Staff</p> <p><u>(JICA Sao Paulo Office)</u></p> <p>1. Mr. Norinobu Hayashi Director</p> <p>2. Mr. Tadashi Ikeshiro Deputy Director</p> <p>3. Ms. Cristina Maki Nonoguchi Staff</p>	<p><u>(Gastroenterological Diagnosis and Research Center - UNICAMP)</u></p> <p>1. Prof. Dr. Hermano Tavares UNICAMP President</p> <p>2. Prof. Dr. Mohamed Habib Director, Institutional and International Relations Office</p> <p>3. Prof. Dr. Jose Murilo Rubillota Zeitune GASTROCENTRO Coordinator</p> <p>4. Prof. Dr. Ademar Yamanaka JICA Project Coordinator</p>

Handwritten signature and initials, possibly 'H. T.' or similar, located in the bottom right corner of the page.

JICA